

# 櫻だより



氷見市立北部中学校  
校長室から  
令和6年3月6日

## 心の庭に

地球にとっては、ブルッと震えた程度なのだろう。  
もしくは、ちょっと大きめのくしゃみをした程度だろうか……。  
元日の地震は、今なお大きな爪痕を残し、完全な復旧・復興はいつになるか見えてこない。  
地震によって自分の家も被害を受け、暗い気分になった。  
また、全壊等になり近所の方が転居する話を聞くと、寂しい気持ちになった。  
だからだろうか、いつもより「櫻だより」に向かおうとしない自分がいた。

そんな時、購読している雑誌の中に次のような言葉を見つけた。

「災難に出会ってやけになる人、人を恨んで暗い心になる人、何もしなくなる人がある。

これは災難の上塗りを自分でしている人である。

さあ、一つ災難がすんだ。運命が延びる道をふさいでいた石が一つとれた。さっぱりした。

これからしっかり勉強しよう。こう思う人は節から芽を出して繁る人である。」

〈常岡一郎氏 元参議院議員〉

あの地震の後、なかなか「さあ、一つ災難がすんだ」とは考えられなかった。  
でも、この機会に家を片付けて不要な物を整理しようと、少し前向きな自分もいる。  
松下幸之助氏は次のような言葉を。

「悲運と思われる時でも、決して悲観し、絶望してはいけない。

その日その日を必死になって生きていくことが大事。

そのうち、きっと思いもしない道が開けてくる。」

そうか、必死になって生きていけば、道が開けてくるのだな。

そう信じて前を向いていくしかない。大切なのは、自分の心の切り替えだろう。

ジェームズ・アレン（作家 英）は、人間の心についてこんな言葉を。

「人間の心は庭のような物です。もしあなたが自分の庭に美しい草花の種をまかなかったら、  
そこにはやがて雑草のみが生い茂ることになります。

優れた園芸家は庭を耕し、雑草を取り除き、美しい草花の種をまき、それを育み続けます。

同様に私たちも、もし素晴らしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、

そこから不純な誤った思いを一掃し、その後には清らかな正しい思いを植え付け、

それを育み続けなくてはなりません。」

災難に出会って暗く沈んでいた自分の心には、雑草が生い茂っているのかもしれない。  
雑草を取り除き、心の庭を掘り起こさなければ……。

さて、いよいよ来週は卒業式。卒業式という節目に向けて、生徒の心の畑を耕していきたい。  
そして「感謝」や「希望」といった清らかな種をたくさんまきたいものです。  
皆さんはこの機会を捉えて、生徒にどんな種をまきますか？